

研究に関するお知らせ
日本における PCIT (Parent-Child Interaction Therapy) の
治療効果に関する多施設共同後方視研究

愛育クリニック小児精神保健科では、以下にご説明する研究を行います。

この研究への参加を希望されない場合には、研究不参加とさせていただきますので、主治医にお申し出ください。お申し出になられても、いかなる不利益も受けることはありませんので、ご安心ください。

■研究目的・方法

親子相互交流療法 (Parent-Child Interaction Therapy : PCIT) は 1970 年代に米国の Eyberg 氏によって考案された、エビデンスに基づく個別の親子心理療法です。親が子どもと交流しながら新たなスキルを身につけていき、子どもの変化をその場で実感できることが大きな特徴となっています。

開発当初は 2～7 歳の破壊的行動の問題を持つ子どもと親が対象とされましたが、その後被虐待児童や、トラウマを受けた子ども、さらには自閉スペクトラム症に対する有用性も報告されており、その対象は拡大傾向にある治療です。

国際的にはそのような位置づけの心理療法ですが、国内では PCIT の介入・治療に関する多施設での効果検証研究は実施されていません。今後日本での PCIT の導入と普及を促進するうえで、日本での効果検証は必須であるため、本研究で多施設共同後方視的に PCIT の介入・治療効果の分析を行うことを目的としています。

■研究期間

2020年1月10日～2020年3月31日

■研究の対象となる方

PCIT の CDI teaching を受けたことのある方が対象となります。

■ご協力頂く内容

個人名やカルテ番号、住所、電話番号といった個人を特定する情報は収集致しません。

- ① 被験者保護者背景情報
年齢、性別、参加した保護者の区分 (母親・父親) など
- ② 被験者児童背景情報
年齢、性別、問題の主訴、医学診断、ACE スコアなど
- ③ PCIT 実施関連項目
開始前 ECBI 点数、開始前 DPICS 評価項目、CDI 回数、PDI 回数、終了後 ECBI 点数、終了後 DPICS 評価項目など
- ④ セラピスト背景情報

主セラピストの専門資格および PCIT 資格、コセラピストの有無と有の場合の PCIT 資格、主セラピストのこれまでの PCIT 実施経験数、スーパーバイザーによる指導の有無

■外部への情報提供

愛育研究所に情報は収集され、解析が行われます。研究データは特定の関係者以外がアクセスできない状態で管理されます。

■研究組織

さっぽろ悠心の郷ときわ病院ときわこども発達センター、かとうメンタルクリニック、函館中央病院、岩手医科大学附属病院、国際医療福祉大学病院、岡田こどもクリニック、さいたま市子ども家庭総合センター、若松町こころとひふのクリニック、東京都児童相談センター、愛育クリニック、重症心身障害者施設石川療育センター、日本フォレンジックヒューマンケアセンター、女性ライフサイクル研究所、広島大学病院、広島県西部こども家庭センター、神戸女学院大学大学院心理相談室、神戸親和女子大学、蒲池病院、肥前精神医療センター、心と発達の相談支援 another planet、熊本県こども総合療育センター

■当クリニックの研究責任者：

小児精神保健科 小平 雅基

■本研究全体の研究代表者：

社会福祉法人 恩賜財団母子愛育会 愛育研究所
〒106-8580 東京都港区南麻布 5-6-8 電話：03-3473-8311
児童福祉・精神保健研究部 研究員
小平 雅基